

令和4年 年頭所感

## 『復習（さら）う、体力と気力をもっと鍛錬する』

令和4年1月吉日

石川県弓道連盟会長 水橋 美喜夫

県連会員の皆様、明けましておめでとうございます。

西暦2022年、令和四年「壬寅（みずのえ・とら）」の新年にあたり、皆様には幸多き素晴らしい年となりますようお祈りいたします。

足かけ3年にわたる新型コロナウイルスはまだまだしぶとく変異しながら生きのびています。加えてはるか彼方の南の地で起きた海底火山噴火が我が国にも大きな津波となって押し寄せるといふ影響もありました。どちらも永年の専門家や研究者でさえ対処困難という状況です。始まりがあれば終わりがあると信じて、人類の叡智の結集により平和な環境が少しでも早く到来するよう願います。

令和3年度を振り返るとコロナ制限のなか、全日本弓道選手権大会および全日本遠的選手権大会での入賞、また中央審査の昇段・昇格、叙勲受章など朗報が続きました。しかし、それらを皆で祝福する機会を奪われています。

月への旅行さえ可能な現代科学をもってしても、見えざる敵のコロナウィルスや自然災害を断ち切る、逃げることは不可能と言われ、共生の道を探るしかないと言われていると専門家が述べています。

おかげでここ数年の私たちの生活様式も随分変化しました。外に出なくとも買い物等が出き、一堂に会しなくとも会議や弓道大会が可能になりました。デジタル社会、IT・AIの急速な進化などでこれからも未知・未経験の世界がますます進展していくと思われれます。

ところで全弓連は令和4年度にはコロナ以前に近い事業実施を予定しているようですが、今後の感染拡大次第ではまだ紆余曲折を繰り返すこともありそうです。我々県連としても各方面の意見や指示に従い、慎重かつ冷静沈着に対応せざるを得ません。

この不自由な環境をむしろ内省のチャンスととらえて、教本や講習会でのメモを改めて見直し（復習う）、また、心身の健康づくりノウハウも取り入れてみればどうかと思います。

「寅」は弓矢を両手で引き絞る形を表した象形文字と言われます。私は事あるごとに「早気の克服」と「手の内の工夫」を強調していますが、とりわけ今年は干支にちなんで、弓矢を押し伸ばし（緩まずに）、離れの魔力を克服し（妥協せず）、もっともっと「会」の充実（詰め合い・伸び合い）を目指したいと思えます。皆さんも共に如何でしょうか。

今日もただ弓が引けるという、そのことに感謝する心を持ち、今年も地道にコツコツと只管打射を旨として、一人ひとりが弓道修練を通して体力・気力を充実強化することにより、病魔退散と県連における昨年以上の朗報がもたらされることを期待し、併せて皆様が明るく楽しい弓道人生となるよう念じて年頭の挨拶といたします。

